## 東京都世田谷区・特定非営利活動法人在日ブラジル人を支援する会(サビジャ)

# 、のこころの健康

対し、助成を行っています。 体などが行う民間の創意工夫ある活動などに 生活を送れるよう、NPOやボランティア団 害者などが地域のつながりのなかで自立した 国庫補助金や寄付金を財源とし、高齢者・障 う社会福祉振興助成事業(WAM助成)は、 独立行政法人福祉医療機構(WAM) が 行

利活動法人在日ブラジル人を支援する会(サ ビジャ)の取り組みを紹介します。 今号では、WAM助成を活用した特定非常

## 日本社会への適応をサポート 在日ブラジル人の

の、近年は増加傾向に転じている。 は経済環境の悪化によりピーク時の32万人 21万人で、平成20年のリーマンショック以降 (平成7年)から半数近くまで減少したもの 令和2年6月時点の在日ブラジル人は約

に集住コミュニティを形成してきた。 のある愛知県、 のブラジル人が来日し、製造業の大規模工場 出稼ぎ労働者として日本にルーツをもつ多く 平成2年の入国管理法改正をきっかけに、 静岡県、群馬県、茨城県など コミュ

> していることが課題となっている。 分な教育が受けられないなど、社会から孤立 わりが少なく、 ニティ内の結束は強い反面、 日本語の習得がままならず十 地域社会との関

得した。 立ち上げ、 もたちの将来や未来への可能性を広げるため 活で生じるさまざまな問題の解決支援、 のサポートを目的に、 在日ブラジル人の日本社会への適応、日常生 在日ブラジル人を支援する会(サビジャ)は、 東京都世田谷区にある特定非営利活動法人 平成15年8月にNPO法人格を取 平成10年に任意団体を 子ど

の企業や行政とつながる日本人グループの

談を無償で提供している。そのほかにも、 ラジル人学校と連携し、 適応や将来を見据えた教育支援を目的に、 少年健全育成事業として日本社会・文化への ブラジル人医師や心理士による医療・心理相 所あるブラジル総領事館(在東京、在名古屋、 などに関する電話相談をはじめ、国内に3カ ミナーを開催している。 在浜松)と連携し、それぞれの総領事館内で 主な事業として、労働や法律、 ワークショップやセ 教育、 生活 ブ

にとどまらず、 支援の活動地域は、ブラジル人の集住地域 全国を対象としており、 日本

### WAM から

在日ブラジル人向けの心理相談 事業とワークショップ事業を行い ました。心理相談事業では、 ジル人心理士によるポルトガル語 での心理相談をオンラインと面談 形式で行うなどの創意工夫に努 専門性の高い活動をされまし また、行政や国際交流協会と 連携して開催したワークショップ 事業は医療、教育、法律等、 野の専門職に相談でき、 幅広い専 門家が協力して積極的に展開され たことを評価します。

### 需要が高まる 心理相談と教育支援の

ている。

がら支援活動を行っていることが特色となっ がるブラジル人グループの支援者が協働しな 援者と、ブラジル政府やコミュニティとつな

教育支援事業」を実施した。 し、「在日ブラジル人のこころの健康および 同法人は、令和元年度のWAM助成を活用

域で安心して生活し、 心理相談事業とワークショップ事業を実施し を築くことを目的に、 同事業は、在日ブラジル人とその子弟が 地域社会と良好な関 在日ブラジル人向けの

千葉明子氏は次のように 業を実施 L た経緯 12 語 つ て 事 務

菺

長

0

が  $\mathcal{O}$ か れ 高 か が学校に たブ 働 活 は サ 加 あ 5 ま 6 イ 総 心理 ポ 適 千 傾 ŋ 在 7 つ ル が 領 日ブ 葉 向 ラ ス 7 正 て れ 不 事 遅相談に 入学 氏 ジ な の 安定であ 子 な 7 卜 12 V 館 る教育や 感染拡 るた ラジ ども 内 ま 0 あ ル V と連携 説 ず。 Þ ることか 国 لح L . つ 家庭 明 たとき め 取 ル の 籍 V V 支援 う将 'n 教 大の影響に そ の つ 経済 L 7 への多く 組 内 育 子 れ た て取 は、 や発 ども 5 に り 2 0) 0 12 来 0 まし 生活 提供 加 影響を受けや ŋ 学 達 言 だ え 0) 最 は 組 で支援 て、 れ に関 より仕 た 不安 校 語 5 近 派遣労働 が 2 困難 いや文 は新型 ま が 以 保護 で はする 増 で  $\mathbb{H}$ か きま な 化 事 b す え、 本 5 下 を失 相 Ċ 需 コ る ケ  $\mathcal{O}$ ブ すく、 と連 違 日 生 要 ラ 談 1 口 L 教 ぅ ま が ス V 本 が ナ 相談 対応

さら لح ま で 外 玉 |人自体 が 少な 存 0 か 0 た 福井 県 Þ 島 根

れ

ź

Ý

ル

人

3

ユ

二

بحَ

れ

かり、

れ

お て

5 お コ

ず

生 日

V つ た 地域 近 年 で は 既 新た 集 住 地 域に 加 え、

> ラ 相

Ý

ル で

0

集住

圳 ブ 理

談

は、

在 0)

日 心

面

談

形

式

受け ブラジ たをす 係者 行う 活に 本文 域 るこ テ 7 た。 イ 入 で 必 化 لح n が n ル か SABJA 050-6861-6400

ば

V

わ

な 応

5

تغ

ょ 政

いうに や学

対

か V

興 が か

0

集 え か

地 11

う V

相

増

提供

相

談支

援 住 て 5

を

ク

シ

3 P 新 談 0) 0 行

ッ

を実施

る側 人に

0

校関

な 慣 成

報 て

の乏し

1

٤. 情

どま

5

ず

### 理 力 ル セ 心 ij 玾 ī を提 よ

る 談形式で実 理 ポ 相 ル 談 1 事 ガ 業 施 ル 1 語 で 0 は、 心 理 ブ 相 ラ 談 ジ をオ ル 人 ラ 心 理 イ

によ

心

でする 窓 р 相 玉 談で 活 の e  $\Box$ た 在 な サ 設 め は、 日ブ イ け ラジ 午 ブ ル 電 ラジ 前  $\mathcal{O}$ 話 兾 ル や 午 なる相 ル 人 Ė 人心理 後 を デ 対 オ 夜間 談者 象 通 士 話 2 0 0) ツ 人を 時 12 1 1 間 オ ル 帯 ズ 配 S

イ

全

面

ス カ

置 ラ 士 士に る 自 た ٤ さ 地 Z 相 5 相 ょ め 身 6 えない どが 談  $\mathcal{O}$ る継続的

基

本的

5

回

ま ポ

を目

安に ~必要

同 な

じ 人

心 で

理

な

ポ

 $\vdash$ で 1

を

行

11

ま

た。

長 など、

期

的 に

なサ

1

が

うつ

状

態

心の相

談者

が

匆

相談だけ

子ども

0)

発 L

達

12

関 自

も多くな

0 でなく、 サ

て

V

ま

す

域 に 0) あ Ź 心 全国 理 相 談事 6 地 域 業 で (福井 は、 菒 ブ 越 ラ 3) 前 市 ル

集

### 事業概要

して

心

理

カ

ゥ を

ン 活

セ

ン

グ

を

提

供

イ

プ

な

用

k y

令和元年度事業

ブラジル人心理士による心理相談の様子

### 特定非営利活動法。 ラジル人を支援する会(サビジャ)

在日ブラジル人のこころの健康および教育支援事業

助成額 766万7千円



た。

### 【事業概要】

在日ブラジル人とその子弟が地域で安心して生活し、地域社会と良好な 関係を築くことを目的に、ブラジル人心理士によるオンラインと面談によ る心理相談や教育サポートを行うとともに、新興集住地域において心理・ 医療・教育・法律・日本語教育に関するワークショップを実施する事業



### 【実施内容】

- ◆在日ブラジル人向け心理相談事業 ブラジル人とその子弟を対象に、 ラジル人心理士によるオンラインと 面談方式の心理相談を行うほか、 語や文化の違いから適正な教育や支 援の提供が困難な児童を対象にした 教育サポートを実施
- ◆ワークショップ事業 地域の子育て・教育に貢献すること を目的に、ブラジル人の新興集住地 域において、心理・医療・教育・法律・ 日本語教育に関する相談ブースを設 置し、各分野の専門職に母国語で相 談ができるワークショップを開催



### 【成果】

◆心理相談の支援は、オンライン相談では延べ 902 愛知県新城市と茨城県常総市で開催した面談 相談では延べ42人に対し、心理カウンセリング を提供した

さらに、 ブラジル人の 集住地域のある全国6 地域(福井県越前市、 岡県浜松市、神奈川県秦 野市、愛知県名古屋市、 豊橋市、豊田市) で出張 相談会を開催した



- 7人の児童に実施した教育サポートは、 心理士によるポルトガル語版の WISC 検査を行い、 適切な分析のもと、サポート方法を学校・保護者と 共有することによりスムーズな支援が可能となった
- ◆島根県出雲市と福井県越前市で実施したワークシ ョップ事業には、それぞれ26人、21人が参加した。 在日ブラジル人にとどまらず、行政や学校関係者 も参加したことにより、新たに移住してきたブラ ジル人を受け入れるための対応について学ぶ機会 となった



隔 対 る愛 内 面に 月 1容と 知 1 県新 ょ 回 L る心 7 に 城 は、 理 市 相 ブ 月 経 談を ラジ 済 1 的 実 回 ル に苦 施 人 と茨城 心 しく 理 士 将 県 が 訪

間

市 0)

あ

この著作物は著作権法、国際条約およびその他の知的財産権に関する法律や条約 によって保護されています。版権者(独立行政法人福祉医療機構)ならびに著作 権者の許可を得ない複製(コピー)、再配布を、固くお断わりいたします

岡県浜松市、 どに関する相談に対応した。 心理相談にとどまらず、 出張相談会の心理相談については、 豊橋市、 豊田市)で出張相談会を開催し、 神奈川県秦野市、 法律や生活、 愛知県名古屋 教育な 初回

供したという。 ンラインに切り替え、 対面によるカウンセリングを行った後は、 助成期間中の心理相談の支援実績は、 心理カウンセリングを提供 継続的なサポートを提 面談相談では オン オ

ライン相談では延べ902人、



島根県出雲市と福井県越前市で実施した -クショップでは、心理相談をはじめ、 医療、法律、日本語教育に関する相談ブ スを設置し、それぞれの分野の支援機関 と連携して相談対応を行った

日本語教育に関する相談では、日本国際 協力センター(JICE)の協力を受け、 労働者向けに日本語を学べる手段などの 情報を提供した

ポルトガル語の医療支援を行う NPO 法 人マイケンの医師による医療相談の様子

## 教育サポートを実施保護者・学校と連携

事業の案内チラシを配布し、支援の依頼 ポートでは、 った7人の児童に対して支援を行った。 教育や発達で悩みを抱える児童への教育 集住地域の教育委員会や学校に の

すが、 となります。 けでなく、 断が難しいケースがあります。 ますが、 教員から依頼を受けた、 ブラジル人心理士によるポルトガル語版の 教育システムの違いを理解した専門家が必要 結果を算出することが難しく、 る検査を通訳を介して行うため、 能検査の であれば、 ものなのか、 かったり、 教育サポートの対象は、 ブラジル人の児童の場合、 その要因が言語や文化の違いによる 日本とブラジルの文化や生活環境、 授業についていけない児童になり WISC検査』 児童心理士のカウンセリングや知 そのため、 発達障害によるものなのか、 学校で落ち着きがな 教育サポートでは、 を受けて診断し 保護者や学校 言語の問題だ 日本人の児童 日本語によ 正確な検査 ま 判

を行いました」。 ながらサポー と学校が連携し をもとに保護者 ISC検査を実 流 ル人心理士 教育サポー 最初にブラ れとし 検査結果 が 7

> 態を確認する。 児童と保護者との3者面談を行 た場合は学校の教員と情報を共有し、 その後保護者の同意が得ら 必要に 童 0

教育サポートの流れ(イメージ図) ブラジル人心理士サ SABJA 家庭でのサポート

だけでなく、学校側と共有しながら連携する えるようになったという。 庭内や学校生活でのサポー ことで児童が抱える困難さが明確になり、 アドバイスを行い、承諾を得たうえで教員と かす内容となっている。 も情報を共有しながら、 母国語によるWISC検査の結果を保護者 学校内での支援に活 がスムーズに



実施する。

心理士は分析した調査結果をもと

に保護者に家庭内でのサポート方法につい

応じてポルトガル語版の

|WISC検査|

日本社会との連携が広がる

助

成事業の成果について、

千葉事務局長は

人を受け入れるための対応について学ぶ機会

多加もあ

ŋ

新たに移住してきたブラジ

国

人支援団体、

派遣会社など日本人

特定非営利活動法人在日ブラジル人を支援する会(サビジャ)

事務局長

養成が課題

令和元年度の助成事業では、在日ブ ラジル人の集住地域のある行政や教育 委員会、警察署、国際交流協会など、日 本社会との連携が広がったことは大き な成果となりました。現在は、愛知県

新城市で心理相談と教育サポートを含 めた事業の予算化に向けた協議を行っ

ていますが、日本各地で同様のサポー

トが受けられる支援体制をつくり、今

千葉 明子氏

なったという。

専門家の確保、

### ワー 新興集住地域で、 クショップを開催

プを開催した。 各分野の専門家に相談ができるワークショ で実施し、 報提供と相談支援を目的にした ´プ事業」 日ブラジル 日本語教育に関する相談ブースを設け、 心理 は、 島根県出雲市と福井県越前市 人 「相談をはじめ、 の新興集住 地 域に ワ 医 療、 ĺ お クショ V 教育、 て情

ぞれ 際交流協会と連携し、 の会議室で開催した。 の ĺ -クショッ 地域の行政や警察署、 プ の実施にあ 市民会館や市民センタ 教育委員 たっては、 会、 玉 n

てポ 語講座を行う支援機関の協力を受けた。また、 ル人をはじめとする外国人就労者向けに日本 PO、法 談ではポ 同法人が心理相談と教育相談を行 している弁護士協会、 ワ 多様な相談に対応する支援 ルトガル語で相談ができる体制をつくった。 Ì で 人の通訳スタッフを配置 は ク 1律相 21 シ ル ノトガ ヨッ 人が参加したほか、 談では全国で無料法律相談を展開 ル語による医療支援を行うN プには、 日本語教育ではブラジ 出雲市では26 [することで、すべ 体制と 行政や学校関 しては、 医療相 人、

> をあげる。 行政や学校関係者などと連携し、 人の支援体制を構築することができたこと 在日ブラジ

学校関係者から依頼されたも 者から高 しました」。 で対応に苦労していることをあらためて実 大きな成果だと思います。 より心理相談やワークショッ 大使館やブラジル総領事館との連携 「これまでの支援活動 た日本の公立学校や教育委員会と連 教育サポートでは、これまで関わりの サポートした7人の児童 ブラジル人の子どもの教育サポートを行 助成事業では各地域 日本社会との連携が広がったことは い評価をいただいた教育サポー では、 とくに、 の のうち、 の行政の協 プを開催 で、 日ブラジ 教育現場 学校関係 が中心で 5人は 一力に トで 携 た

Ļ うなど、

か

つ

り、

したが、

ポ 支援ニー 6 ا ا W 同 VA M 助 法 をさらに強化 人 は、 ズの高い教育 成を活 令和2年 用 し Ų 度

として全国に広がること 生活で生じる問題の 議が行われている。 部局と予算化に向け を含めた事業として 心理相談と教育サポ いる愛知県新城市 在日ブラジル り組 在 日外国人へ む同法人の活 人 の の で 支援 た協 担 解 1 日 は、 動 決 常

ます。

東京都世田谷区奥沢 1-58-8 2階

後はブラジル人に限らず在日外国人が増えていくなかで、

くためには、心理士の資格をもつだけでなく、日本と母国の

なるため、このような人材の確保や養成が課題だと考えてい

生活環境をしっかりと理解した人材が不可欠に

言語でも対応できる支援モデルになればと思っています。 その一方で、適切な心理相談や教育サポートを提供し

TEL: 050-6861-6400 URL: http://www.nposabja.org/

理事長:茂木 真二 が期待される。 ら心理相談事業を継続 て お り、 毎月実施 L 7

◆団体概要

T158-0083

立:平成15年8月(任意団体:平成10年)

### ●NPO リソースセンター

NPO 支援課(助成事業の相談・募集、NPO の融資相談等)

TEL: 03-3438-4756 FAX: 03-3438-0218 (共通)

NPO 振興課(助成事業の広報、事業評価等)

TEL: 03-3438-9942 FAX: 03-3438-0218 (共通) NPO等の民間福祉活動への応援よろしくお願いします!

当機構では 寄付金を募集 ています



お問合せ先:03-3438-0211(総務部総務課)



